

# 令和八年度第七十二回入学式 式辞

柔らかな春の日差しが降り注ぎ、校庭の桜が咲き誇る、希望に満ちた季節が巡ってまいりました。本日、ここに取手市立取手第二中学校「第七十二回入学式」を挙げるに当たり、取手市長 中村 修 様をはじめ、取手市議会議員の皆様、学校運営協議会の委員の皆様、本校PTAの皆様など、多くのご来賓の皆様、また、保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、ただいま呼名いたしました134名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのきらきらとした瞳、そして引き締まった表情。その姿を見ているだけで、私たちの胸も熱くなります。今、皆さんの胸のうちはどうでしょうか。期待よりも、不安のほうが大きいかもしれません。胸の鼓動がいつもより速い「ドキドキ」を感じている人もいますでしょう。でも、安心してください。その「ドキドキ」は、皆さんが新しい自分に出会おうとしている「心の準備」の音です。その音を、自分の頭と心と、そして体をフルに使って、一歩ずつ「ワクワク」に変えていってください。私たちは、

皆さんがその「ワクワク」を見つげる瞬間を、何よりも楽しみにしています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませす。大きめの制服に身を包み、少し緊張しながら臨んでいるお子様の姿。これまでの道のりを思い返し、喜びもひとしおのことと存じ上げます。今日からは、私たち教職員が、皆様の大切なお子様の成長を全力で支えるパートナーとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新入生のみなさん、改めて、おめでとうございます。取手市では「ハートとアートで子どもたちの未来を拓く学校教育」というキャッチフレーズを掲げています。豊かな心（ハート）をもち、正解のない自由な発想や表現を大切にした創造的な感性（アートの視点）、このことを通して未来を切り拓いていく力を、この取手第二中学校で育んでいってほしいと願っています。そのために、皆さんに大切にしてほしいことが二つあります。

一つ目は、「考えて、考えて、考えぬくこと」です。これからの時代、AIが多くのことを助けてくれるでしょう。しかし、どんなに技術が進んでも、AIが代わることができない

ものがあります。それは、皆さん一人一人の「考える力」です。「なぜだろう」「どうしてだろう」と問いかけ、深く考えることは、問題を解決し、自分を成長させるだけでなく、隣にいる「誰かの気持ち」を想像することにつながります。相手の痛みを自分のことのように感じ、寄り添える、そんな思いやりあふれる人になってください。それこそが、AIには真似できない、また、何ものにも負けない、人間ならではの尊い強さになります。

二つ目は、「レジリエンス」です。これは、たとえ困難や逆境にぶつかっても、しなやかに立ち直る「折れない心」のことです。中学校の三年間、いつも晴れの日ばかりではありません。時には雨が降り、風が吹き、壁にぶつかる日もあるでしょう。しかし、失敗を恐れる必要はありません。周りを見てください。ここには、喜びを分かち合い、苦しい時に背中を支えてくれる仲間がいます。また、皆さんを温かく見守り、支えてくれる先輩、おうちの方、地域の方がいます。そして、私たち教職員が皆さんを全力で支えます。たとえ転んでも、そこには必ず手を差し伸べてくれる仲間や先生がいます。安心して、また新しい一步を踏み出す。そんな温かな強さを、

この三年間で一緒に育んでいきましょう。

昨日の始業式では、二年生・三年生の先輩たちとも約束しました。私たちの合言葉は、「みんなの笑顔のために」です。

この言葉を胸に、一緒に、最高に幸せな学校をつくっていきましょうと誓い合いました。今日、新入生の皆さんが加わり、取手第二中学校という大きな家族がそろいました。「誰一人取り残さない」。そして、誰もが安心して自分らしくいられる学校を、みんなでつくっていきましょう。

終わりにりましたが、ご来賓の皆様、地域の皆様、これからも本校の子どもたちを温かく見守り、時には厳しく、そして優しくお力添えをいただけますようお願い申し上げます。保護者の皆様、今日からは学校と家庭は、お子様を真ん中に置いた「最高のチーム」です。共に歩んでいけるよう、私たち教職員は全力を尽くす所存です。何卒、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後に、新入生の皆さんのこれからの三年間が、きらきらと光り輝くものになることを心から願い、式辞といたします。

令和八年四月九日 取手市立取手第二中学校長 丸山 信彦